

空飛ぶクルマ、有人飛行 三菱地所・JALなど 24年度、都内で実証実験

2022/8/4付 | 日本経済新聞 夕刊

三菱地所と日本航空（JAL）などは2024年度に東京都内で「空飛ぶクルマ」の有人飛行を実施する。屋外の公共空間で実施するのは国内初で、三菱地所が持つ高層ビルの屋上や郊外の駐車場に離着陸の拠点を設けて実証実験として取り組む。将来は離着陸拠点の周辺に住宅やオフィスを整えた街づくりを進め、新たな働き方や住まいを探る。

三菱地所は東京都が公募した空飛ぶクルマに関するプロジェクトで事業者に採択された。航空機運航のノウハウを生かして機体の運航サービスを担うJALに加え、離着陸拠点を開発・運営するスタートアップの英スカイポートと業務提携している兼松の計3社で協業する。

計画では22年度に離着陸拠点の設置場所や整備要件を洗い出し、想定する路線や運航コストなどを検証する。23年度に拠点同士をヘリコプターで遊覧飛行し、24年度内に実際に乗客を乗せて空飛ぶクルマを飛ばす。機体はJALが20年に出資したドイツのスタートアップの航空機メーカー、ボロコプターなどを軸に検討する見通しだ。

離着陸拠点の設置ではガイドラインの整備で先行する欧米の知見を持つスカイポートの協力を得る考え。三菱地所が東京・丸の内などに持つ高層ビルの屋上を検討するほか、郊外にある駐車場や空港を含めて適地を探す。

国土交通省によると、現在はゴルフ練習場内など私的空間の有人飛行に限られ、公共空間で実施すれば初めてとなる。

三菱地所としては実証実験を重ね、20年代後半にサービスの実用化を目指す。同社が想定するルートは電車の移動に比べ所要時間の短縮が見込める場所とし、東京都内と、さいたま市や千葉県船橋市、横浜市などを結ぶルートを候補にする。空港からの発着や伊豆諸島など離島地域をつなぐ活用法も視野に入れる。

離着陸拠点は運航会社に賃貸する計画だ。将来は約30棟を保有する丸の内地区を中心に、湾岸エリアや横浜市内のみならず、名古屋、大阪などでビジネスマンの通勤のほか観光客の活用を見込む。